

あやめ池北地区

(奈良県奈良市)

- ポイント** 産・官・学が力を合わせ、駅前遊園地の閉園により発生した大規模な低未利用地の有効活用を目指すまちづくり。

- 地区概要** 都市基盤施設（駅前広場、都市計画道路）の整備に加え、あやめ上池の優れた景観・環境の中を市民が憩いながら快適に散策することが出来る水辺歩道を整備し、親水性の向上を図る。

目 標

- 駅前機能の充実により市民の利便性と安全性を高めるまち
 - 水辺と緑を楽しみながら誰もが快適に歩いて暮らせるまち

指 標

『利便性と安全性』『水辺と緑を楽しみながら快適に歩いて暮らせるまち』の実現について、駅乗降客数、遊歩道通行者数、市民満足度を指標とし、事業効果を評価する。

駅乗降客数	11,408人	(H17)	→	12,665人	(H23)
遊歩道通行者数	0人	(H18)	→	780人	(H23)
市民満足度	10%	(H18)	→	64.5%	(H23)

事業內容

基幹事業（909 百万円）→道路（平城学園前線 $L=300m$ 、あやめ池駅北駅前広場 $A=2,100 m^2$ 、あやめ池登美ヶ丘線拡幅 $A=275 m^2$ ）

地域生活基盤施設（情報板 1 節所）

高質空間形成施設（緑化施設等：ラインシェルター1箇所、ベンチ6箇所、モニュメント2箇所、サイン5箇所）

提案事業（154百万円）→地域創造支援事業（水辺遊歩道A=5,500m²）

事業活用調査（事業効果分析調査）



地区の現況と課題

あやめ池北地区は、大正12年に「あやめ池駅」が設置され、同15年に「あやめ池遊園地」が開園して以来、レクリエーション地として広く市民に親しまれてきたものの、平成16年に良好な水と緑の景観・環境を残しつつ閉園することとなりました。また、あやめ池駅周辺には駅前機能等の都市基盤施設が不足しており、地区の利便性・安全性の確保と地区ポテンシャルの向上に加え、地区に備わる水辺のオープンスペースへのアクセス性の確保が求められていました。

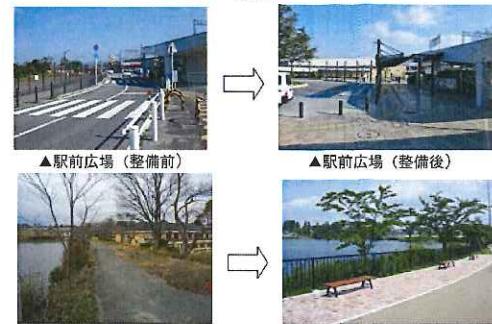


▲あやめ池遊園地時代

▲整備前



▲整備後



▲駅前広場（整備前）

▲駅前広場（整備後）



▲水辺遊歩道（整備前）

▲水辺遊歩道（整備後）



▲広々とした駅前広場

▲広々とした都市計画道路



▲水辺遊歩道

▲水辺遊歩道



▲水辺遊歩道

休憩場所や距離等を表示

提案事業の特徴

水辺遊歩道

あやめ上池の優れた景観・環境の中、市民が憩いながら快適に散策することができる水辺遊歩道をあやめ上池の周囲に整備し、親水性の向上を図りました。

まちづくりの効果、持続的取組

まちづくりの目標を量化する指標としていた『駅乗降客数』、あやめ上池を周回する『遊歩道通行者数』、『市民満足度』について、全ての目標を達成することが出来ました。とりわけ、市民満足度については、10%から約65%と飛躍的に向上することとなりました。

その満足度の持続を図るため、今後も引き続き整備した施設を適切に管理し、質の高い生活環境を保持していきます。

奈良市長のコメント

あやめ池北地区は、『あやめ池遊園地』という大看板を失ってから賑わいの衰退傾向にありました。今回、その『まちの再生』を目指し、まちづくり交付金を活用して地域に貢献し、そして堅実な都市基盤施設等の整備を行いました。その結果、民間による良好な住宅地整備をはじめ、大学付属小学校・幼稚園など、様々な商業施設が誘致され、『魅力あるまち』へ再生することが出来ました。この度の受賞を契機に、引き続き訪れる人にも暮らす人にも、より魅力的なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

あやめ池遊園地跡地利用検討会

増田昇会長のコメント

2004年6月に閉園したあやめ池遊園地跡地の開発に際し、地元住民の方々と奈良市、近鉄、学識経験者で構成される検討会を設置して、産・官・学・民が力を合せてまちづくりの方向性を検討しました。そこでは、奈良県を中心に近畿一円の子供の記憶に残るあやめ池の風景（ランドスケープ）を継承、活用して四季や自然と応答する街とともに新たなライフスタイルのもともと人と地域がつながるまちづくりを目指すという方向性を示しました。この方向性を反映し、あやめ池周辺の四季折々の自然を親しむための遊歩道の設置とともに巨樹や古木の保全や景観に配慮したまちづくりを推進するためのガイドラインの策定、さらには、環境共生住宅の導入とともにタウンセキュリティへの取り組みなど、関西圏で有数の生活環境と評される原動力になったものと考えています。このたびは「まちづくり効果賞」を受賞され、検討会会長として大いに誇りに感じるとともに、地域との連携の中で、今後さらなる発展を期待しています。